



東稲ニュース

第5号

(東久留米稲門会)

平成 14 年 4 月 10 日発行
発行責任者 高 橋 勤
編集責任者 比 護 喜一郎

<http://homepage2.nifty.com/35292/>

会の告知版

4 月 2 1 日 (日) 第 8 回 定 時 総 会 於 成 美 教 育 文 化 会 館

講演会 14:00~15:30

演題「よしなしごとーいのちひとつ」

講師 榎本隆司 早稲田大学名誉教授／東久留米稲門会顧問

総 会 15:30~16:10

懇親パーティ 16:20~18:30

総会費 5,000円 (同伴者 3,000円)

年会費 5,000円 (内訳 年会費3,000円 125周年記念募金2,000円)

6 月 2 日 (日) 東久留米稲門会雑学塾 15:00より 於 中央公民館 2F 学習室

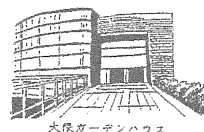
演題「損害賠償のあれこれー最近の裁判事例から」

講師 泉 信吾 弁護士 (当会員 40 年法)

[大学・校友会関係]

5 月 1 3 日 (月) ~ 5 月 1 8 日 (日) オール早稲田文化週間

5 月 1 9 日 (日) 年次稲門会 10 年祭



[部会スケジュール]

太極拳部会	毎月第二・第四土曜日	10:00~11:30	成美教育文化会館
	第一・第三木曜日	10:00~11:30	同上
書道部会	毎月第二日曜日	13:30~16:00	中央公民館 (原則)
俳句部会	5 月 2 6 日 (日)	13:30~17:00	中央公民館
囲碁部会	毎月第四日曜日		成美教育文化会館

地域稲門会の役割

名誉会長 安宅 武一

ソートレークシティで行われた冬季オリンピックは、残念ながら日本勢の惨敗に終わった。
しかしフィギュア女子の村主章枝 (すぐり ふみえー早大教育学部三年) 選手の五位入賞は

見事だった。三回転のジャンプの度に手に汗して声援を送ったのは私一人ではないだろう。また現役時代から引き続いてノルディックスキーで活躍している萩原健司選手（北野建設）に心からご苦労様とねぎらいの言葉を掛けたのも私一人ではなかったろう。二人とも早稲田の後輩だ。身内の活躍ぶりを見るだけで胸が詰まる。

オリンピックが終わり、今や受験シーズン真っ最中である。大学も試験中堅く門を閉ざしていたがやっと終わって平常に戻った。幸い今年の学部志願者数は、11万人を超え、昨年比約4000人増加したようだ。少子化で定員を確保するのに苦労している学校もあると聞くが、早稲田大学は教職員の努力のお陰で、研究・教育の充実と伝統の復活とが相俟って人氣が回復して来たことは、ご同慶の至りである。

また卒業シーズンでもあり、母校からも約一万人の卒業生が社会に巣立ってゆく。勿論四月には新入生がほぼ同じ数だけ入って来る。卒業生は勿論校友会の対象者であるし、新しく改正された校友会規則では、現役学生も準会員となる。東久留米市在住者の中にも対象者がきつというに違いない。我が稲門会も直ちにこれらの方々に呼びかけを行いたいのだが、残念ながらプライバシーの問題も正確さとスピードの点で我々の能力を超えている。

現在、市内在住者は約千名を超えるが、会員はこのうち約170名程度に止まっている。しかも年輩者が比較的多い。会員を増やしたい、若い現役の会員を増やしたい、と役員の方々はご苦労を重ねている。しかし言ってみればこれは贅沢な望みかも知れない。

社会で活躍している現役の校友の殆どは職域稲門会に属している。職域（会社）には定年制度があり、やがて定年を迎え職場を去って行く。それから帰って行く所、それが地域の稲門会である。校友会本部がこの数年間、地域稲門会作りに力を入れて来たのは実はそのためであったのだ。現役校友には職域での存分の活躍を期待しよう。その活躍の成果こそが早稲田大学の世間の評価を高からしめることになるのだ。

そして職域を去った以降、今度は地域稲門会に属して、従来の経験や知識を生かし、会員や地域市民に役立つ活動をして行く。地域稲門会には定年がない。これが東久留米稲門会の役割なのだ。

私の同級生の何人かは、地域稲門会で活躍している。会社を定年退職、以後稼業の米店の店主に収まった友人は、昨年来、餅つき大会兼忘年会を企画実行して大好評を博したと近況を書いてくれた。他の友人は、月一回の稲門会囲碁部の例会を何よりの楽しみにしているという。ある稲門会の会長に就任している友人は、創立125周年の募金集めで苦労している。何とか期日までに総額を125万円にしたいと言っている。

私は今年で卒業後50年目を迎える。10月20日の「ホームカミングデーと稲門祭」で、それらの仲間達との再会を今から楽しみにしている。（H14.3.4）

大学・校友会の行事

都内稲門会幹事長・事務局長会開催

3月2日（土）午後2時から早大・大隈会館で開催。中島校友会代表幹事の挨拶のあと、校友会と大学との関係について説明があり、最後に創立125周年記念事業の募金活動の報告がなされた。



早稲田大学は二〇〇七年に
創立百二十五周年を迎えます

春期代議員会開催

3月2日(土)上述会議に引き続いて2002年春期代議員会が開かれた。奥島総長の挨拶の後、中島代表幹事が議長となり、02年度経常収支予算及び校友会規則の改正等が審議され、全て原案通り可決承認された。当会からは帆角副会長、安次峰幹事、山岡幹事が出席。会議終了後の懇親会では、大学関係者や近隣稲門会の方々と親交を深めた。

部会便り



女性サークル部会

部会長 棚野愛子

柔らかな春を運んできた風に乗って今年も「ホーホケキョー」が聞こえてきました。平成14年度の女性サークルの活動開始です。今までとは違った趣向で春と秋と二度三度楽しいプランを予定しています。皆様のご参加を心からお待ちいたします。

*4月1日より同部会の部会長が大川さんから棚野さんにバトンタッチされました。

グルメ部会

ー 第二回グルメ探訪一貸し切りで手打ちそばを堪能ー

2月23日、保谷駅に集合。歩くこと7～8分。閑静な住宅街の中にこじんまりした瀟洒な洋風建物。看板も小さく注意しないと気が付かないような洒落た店。此処が今回の会場の「手打ちそば・季彩すず木」である。若夫婦二人だけの店で今日は我々16名だけの貸し切りである。

美人の奥さんに優しく迎えられ店内に入ると壁の一部には大谷石が使われており、照明も柔らかく、モダンでしかも落ち着きがあり心が和む。

午後1時、高橋会長の発声でビールで乾杯。料理はおまかせコースで、蛸のオイル漬けに蕪とスモークサーモンのサラダから始まり、鴨ロースのバルサミコ風味まで6品。店主の手作りつまみがそれぞれセンスの良い器に盛り付けられ、奥さんの爽やかな笑顔と共に供される。



酒は越後の松露。サラリとした辛口で、冷や良し、燗も又善し。始めはおとなしくしていた面々も、貸し切りで他の客が居ないためか、だんだん勢いづいて、まさに談論風発大いに盛り上がった。

締めは細く香り高い十割せいろ。つゆは濃い辛口で、薬味は葱でなく、辛味大根と生の本わさび。居心地が良すぎて、つい予定時間を大分超過してしまったが、土曜日の午後を堪能できた集いであった。

(神田記)

俳句部会

平成14年第一回(通算37回)の句会が、2月24日(日)中央公民館で開催された。出席者は17名、都合で出席出来なかった2名の投句もあって、7年目を迎えて各位の意気込みが感じられた。

兼題は「雪解」と「沈丁花」、当日出題の席題は「野火」。沈丁花は咲き出したところだったが、「雪解」「野火」と同様、早春の詩情が巧みに詠まれ、それぞれの持ち味が出ていた。

今回の高点句（5点句以上）。

雪解けや宿の親父の大欠伸
悠然と鹿遊ぶなか山を焼く
沈丁花話もはずむ垣根越し

安宅 武一
河村 洋子
大久保泰司



句会が終わって、一階ロビー喫茶で帰りを急がない部員七、八人が歓談。今日は「できがよくなかった」、「最近うまくまとまらない」などなど呟きも聞こえた。（橘正治記）

書道部会

昨年12月開催の「作品展」第2報。

武藤部会長や数人の例外を除いては文字通り50の手習いで、条幅に挑戦するのも初めてなら、作品展の会場設営も勿論初めてという初心者揃い。

いささか冷汗もので幕を開けたが、3日間の会期中260名余の方々にご来場いただいた。市内在住の方が6割強と多いのは当然として、近隣ばかりでなく、かなり遠くからもわざわざ足を運んでいただいたのは望外の喜びである。

特筆すべきはその広がりで、都下13市、都区内7区、埼玉8市、千葉4市、神奈川4市の計36市区町に広く及んでいる。但し地元稲門会の会員（書道部除く）が僅か20名と少なかったのは残念であるし、ひいては当部会のPR不足が反省点として残ったと言えよう。

（荒川記）

太極拳部会

気象庁は、例年より二週間程早いと桜の開花予想を発表、その後二度に亘り開花予想を訂正するなど、本年の桜前線のスピードは、1分あたり30センチ早い動きで通常の三倍とか、あっという間に北上してしまったようだ。

稽古予定表で「花見太極拳」を桜の開花と場所を勘案してとお知らせしたが、ぶっつけ本番の花見会を3月23日稽古終了後に、成美会館周囲の満開桜を觀賞しながら、缶ビールとおつまみで実施しました。来年は是非とも、稲荷山公園の花びらに覆われた芝生の上で、桜木の香りを満喫し、鳥の囀りを聞いてみんなで輪になりながらの「氣力充滿の花見太極拳」が出来ればと思います。

（船尾記）

郷土研究部会

部会長 高橋哲男

東久留米七福神は平成2年に設けられた東久留米市内の5つの寺に祀られている七福神のことで、宝泉寺の弁財天・淨牧院の大黒天・多聞寺の毘沙門天・米津寺の布袋尊及び大圓寺の恵比寿神、福祿寿、寿老人である。この5つのお寺は黒目川と落合川にそってどの寺からも2～3時間で巡ることができる。

今回は紙面上の都合と時間の関係で取材のできた大圓寺と米津寺について紹介し他のお寺は次回以降に説明致したい。

大圓寺は東久留米駅西口から小山方面に徒歩約10分に所在し、正しくは「普門山三皇院大圓寺」といい、天長年間（824－34年）比叡山延暦寺の高僧慈覚大師（円仁）により開設されたと伝えられている。宗旨は天台宗で比叡山延暦寺が総本山である。山門をくぐると仁王文殊楼があり、仁王・文殊菩薩・七福神像が安置されている。また大圓寺は江戸時代末期から大正初期にかけて東久留米市内の観音寺・延命寺・神宮寺・不動院・薬師堂を吸収

し現在に至っている。

米津寺は中央公民館から幸町方面に徒歩10分に立地し、正式名称は「圓通院米津禪寺」であり、萬治2年（1659年）当時旗本であった米津家の菩提寺として建立された臨済宗妙心寺派の寺院である。以前は境内2000坪、本尊木造釈迦如来像を安置する武家寺で最近までは一般の檀家を持たなかった事から市内の寺院でも特殊な存在であった。尚、本堂に布袋尊が祀られている。（つづく）

目下、部員募集中です。ご興味ある方はご一報下さい。一緒に探索・研究致しましょう。

カラオケ部会



3月1日（金）午後6時より東久留米駅北口近くのスナックバー”緒暮路”でカラオケ部会の初会合が開かれました。歌自慢（？）10名の参加を得て、マスター手作りの料理を美味しくいただきながら、ほろ酔い気分で各々好きな歌を数曲づつ歌って、3時間あまりを楽しく過ごしました。会費は一人3千円ぴったりで済みました。次回は5月に、同場所／時刻で開催予定です。開催日が決まりましたら、別途ご案内しますので、お気軽にご参加下さい。

（帆角記）

噴水広場

「逸話に見る浮田和民」

柴田 卓弘 早稲田大学名誉教授
東久留米稲門会顧問

退職しますと、専門外のことに目を向ける機会が多くなります。このところ関心をもっていますのは、早稲田大学史のなかでも誇るべき学舎の一人、浮田和民博士です。博士は同志社から早稲田大学の前身であります東京専門学校へ移りまして、西洋史というまでもなく、政治学、社会学などを講じました。のみならず、総合雑誌「太陽」の主幹として自由主義、民主主義の立場から健筆を振いまして論壇をリードし、大正デモクラシーの先駆者となりました。さらに早稲田では大隈重信の知恵袋と称されたのであります。

このような巨匠は、われわれには仲々近よりがたい存在であります。しかし偉人の逸話は、その人の思いがけない人間的な一面を端的に示すものとして興味深いものがあります。

今日の学者にはあまり当てはまらないかも知れませんが、学者は世俗のことには疎いといわれています。浮田博士も例外ではありません。ある時、岡山県での講演会の折、寒い時期で、夜、宿で床に湯タンポが入れられました。翌朝出発の時、女中が新しい湯タンポを五、六個も部屋に運んできました。いぶかしく思った友人がたずねますと、浮田はこれは大変良いものだから東京へ持って帰るつもりで買わせたのだと答えるのでした。友人は哑然として、わざわざここから持ち帰らなくとも、東京にいくらでもあると申したとのこととあります。

神楽坂かどこかの縁日にお子さんを連れて出かけた時、ほどなく浮田は一人で家に帰ってきました。奥さんが「坊はどうしましたか」とたずねますと、彼は「あ、しまった。どこか

ではぐれた」と答えるのでした。

前号で太田晴之助さんがイギリス人のユーモアについて書いておられましたが、わが浮田先生のユーモアも仲々のものであります。

財界人として著名な婿の原安三郎と汽車に同乗していた折、浮田はある人に原を「これは舅の原安三郎です」と紹介しました。相手がげげんな顔をしていますと、浮田は「実は婿ですが、いろいろ世話になっているので舅のようなものです」といったので大笑いとなるのでした。

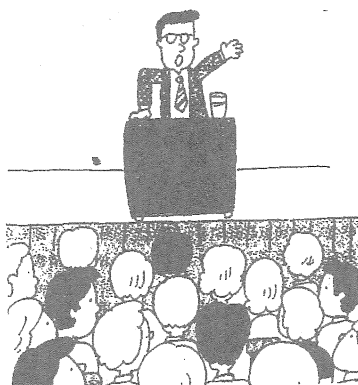
北九州の一校友の家で宴が果てたとき、そこの主人が紙と硯を用意して記念に一筆書いてもらいたいと申しでました。浮田は固辞いたします。彼の字は個性的ですが達筆というわけにはいきません。しかし再三請われますので、浮田は「天皇陛下の御真影と同じように扱って下さるならば」と条件をつけました。主人はもちろんこの条件を受入れ、浮田は詩経か論語かの一節をしたためました。主人は狂喜してすぐさまそれを座敷の欄間に吊そうとしますと、浮田はそれを制して、「御真影の表は鄭重に薄紙で蔽わなければ不敬になります。軽々しく人前にさらすのは初めの約束と違います」と申しましたので、皆思わず爆笑したということです。

浮田は洒落の名手でもありました。外遊に出発するさいに、「西洋から日本を観るつもりである」。「自分は名の如く和民であるたのに、洋民であるかの如く批評する人もある」と述べております。またパリを訪れた折に、フランス革命を専門とする浮田は、是非ナポレオンの墓を詣でたいとオテル・デ・ザンヴァリッド（廃兵院）に赴きましたが、間に合わず閉館していました。浮田も同行者も仏語ができず番人に交渉することができません。「これは不都合だ」と浮田は笑うのでした。ともかくなんとか手真似で墓参りは叶ったのでした。

碩学で一世を風靡しました論客でもありました浮田が、このように、逸話のなかで思わざる一面のぞかせていますことは、その人となりを知るうえで大きな意義を持つばかりでなく、この偉大な人物を一層われわれに身近なものに感じさせる効用をもつものといえるのであります。

（平成14年3月19日）

東久留米雑学塾一講演要約



2月3日（日）市内成美教育文化会館で大会主催第三回雑学塾が開催された。今回は昨年10月7日に行われた第一回記念雑学塾の続編で、講師・演題は同じく坂本顧問・「川柳から見る江戸の庶民」。

前回時間切れで、解説いただけなかった残り100余句を、腰痛気味の先生にご無理を言って再登場願ひ、遅しくて人情味ある江戸の庶民の生き様、生活ぶりを面白く解説いただいた。ここでは後編さわりの部分のみ要約します。

第三回講演「川柳から見る江戸の庶民」－後編

講師：坂本信太郎 早大名誉教授・
東久留米稲門会顧問

前は武家階級と大商家の話でしたが、今回は江戸の庶民の話をします。江戸全人口のうち50万人弱が町人階級です。このうち一割程度が中流以上の町人階級で、あとは地借り、店借り、或いは九尺二間の住まいに住んでいる庶民です。こういう人達によって江戸の毎日の生活が活発に営まれていました。

火事と喧嘩は江戸の華、と言われたように火事が非常に多く、慶長6年(1601年)から明治元年までの267年間に、歴史に残るような大火事が101件もありました。ざっと2年に1度大きな火事があったということです。特に明応3年の振袖火事は有名で、この火事をきっかけに町火消が生まれ、後に「いろは48組」の町火消制度が確立します。さらに、江戸の各地に火除地や防火土手か設けられ、金持ちには瓦屋根や貝殻屋根を奨励した。土蔵造りの家屋が建てられたのもこの頃からです。「江戸市中では喰わえ煙草をして歩いてはいけない」というお触れが町奉行から出されたのもこの明応3年です。

このような状況下、出てきた句に、

ろうそくの 灯ですい付けて 足袋を脱ぎ
や

雨舎り煙管を出して 叱られる

などがあります。前者は、路上で喰わえ煙草が出来ないために、夜、家に帰ると提灯の蠟燭の灯を消す前に、まず煙草に火を着け一服してからやおら座敷に上がってくつろぎぐというものです。

江戸時代は女性の地位は極めて低く、何の権利もありませんでした。妻を離別するときは、亭主が一方的に離縁状を出せば済むという具合です。ただ妻が持ってきた財産はそっくりそのまま返さないと離縁出来ないという制約があったため、離縁状を書きながら、質に入れた嫁さんの財産を受け出しに遣った情けなくもせつない亭主もいたのです。これが

去り状を かくうち質を 受けに遣り
です。

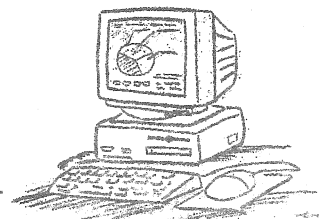
だといって 今百両は 出されまい
も同じような場面を詠んだものですが、こちらの亭主の方がさらに悲惨です。

またぐらの 御無心にあふ ふくろ持ち

ふくろ持ちとはかなりの歳になるまで一度も疱瘡に罹らなかった人のことを言うのですが、当時、このふくろ持ちの股ぐらを潜ると疱瘡に罹らない、或いは罹ってもごく軽くて済むという俗信がありました。そこで、ふくろ持ちをみつけると、周りの人々が股ぐらを潜らせて下さいと、ひっきりなしに頼み込んだ、というのがこの句です。同種の句に

したく金 取っていくのは ふくろ持ち
があります。

*以下数十句に亘り、ほぼ2時間、解りやすく面白く解説を頂いた。講師坂本先生にとっては、抜粋された187句は皆それぞれ愛着のある句であり、実に含蓄のある句群であって、ここで打ち切るのは実に残念ですが、あとは近く刊行される講演録(全編)をご覧願いたく思います。購読希望者は事務局に申しつけ下さい。



* 東久留米稲門会のホームページへのアクセス数は3月末現在、1、030となっています。

* ジェームズ・ルードーとフィリップ・ジョンソンのライブ・コンサートへの誘い。

4月12日(金) 19:00 保谷こもれびホールで当コンサートが開演されます。当会開催のイベントに登用するアイディアもあり、出来るだけ多くの会員にお出かけ願ひ、感想・ご意見をお聞かせ願えれば幸いです。料金 前売り 2,000円 当日 2,500円

* 早稲田大学は埼玉県北部にある人口6万人の本庄市で情報通信と環境をテーマにした街づくりを進めている。2004年の春の上越・長野新幹線の本庄駅(仮称)開業をにらみ、まず、本庄をデジタル映画産業の集積地にする計画を具体化させる。大学が地域社会との連携を模索し、街づくりの担い手になる。(3/9 日経新聞朝刊)

* 「都の西北」歌詞に謎ー早稲田大学校歌の三番の冒頭は「あれ見よ、かしこの.....」だがオリジナルは「あれ見よ、あしこの...」であった。高田早苗が大隈重信内閣の文相に就任した1915年前後に校歌の編曲がなされ、この機に歌詞の”差し替え”があったようだ。(3/15 日経新聞朝刊・文化面)

* 2002年度早稲田大学入学志願者状況(最終)

9学部募集人員総計6、470人に対し志願者数は111、776人で前年度比3、995人の増(103.7%)。因みに慶大は募集4、000人に対し志願者47、001人で前年度比148人の増(100.3%)。(2月早大広報発表)

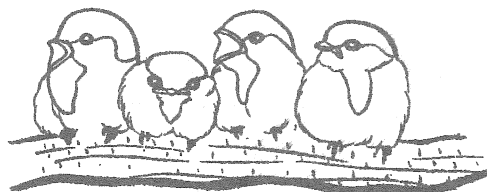
役員会報告

去る2月3日開催の平成14年度第一回役員会にて、下記の議案が提案された。

「部会活動補助金の額は、5,000円とする。但し部会より必要と請求ある場合は、

10,000円を限度に支給する。」

討議の結果、提案通り承認された。



会員の声

東久留米稲門会にはメーリングリストはあるのでしょうか。あれば会員相互の意見交換の場になると思います。アドレスを教えてください。

総会には1回も出たことがない私ですが、囲碁部会には精励しております。囲碁部会の諸先輩方は皆さんgentlemanばかりでとても楽しく囲碁を打っております。囲碁に興味のある方は囲碁部会に参加してみたいかがでしょうか。友達作りと呆け防止に囲碁は最高です。女性の会員の方も是非ご参加下さい。老後に(?)ご主人の囲碁の相手になれば夫婦円満間違いなしです。囲碁は決して暗いゲームではありません。囲碁部会長に成り代わり、少々でしゃばりですが是非皆さんにお知らせしたくて発信しました。

(酒井健一平2社学、H14.3.14 e-mail)

【編集後記】「都の西北」歌詞差し替え記事で思い出したが、当会の大先輩が、最近とみに涙もろくなって、校歌など唱うと脆くも涙が出てくると嘆いておられた。そう言うものかなと思ったものだが、先日TVドラマ「金八先生」を見ていたら、沢もなく涙が出てきた。涙腺が緩み始めたのに違いない。ゴルフの飛距離でも思い当たることだが、若いと努めて思ってもフィジカルな衰えは隠しようがないようだ。先輩共々校歌を唱ひ、涙するのまた乙なものだろう。そうだ! 6月1日(土)早慶戦に行こう!